

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定 **実施結果**)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒が課題を発見し、探究して課題を解決する力を養えるような教育課程を編成する。</p> <p>②学ぶ意欲や探究心を高めるための授業改善に取り組む。</p>	<p>①基礎学力の定着に主眼を置き、社会で生き抜くための人間力を高める。新学習指導要領に基づく新しい教育課程の運用・改定を行う。</p> <p>②生徒の多様なニーズに合致した、実践力を高めることのできるような授業の実現、および、学習の質の向上や個別最適化を目指し、外部資源やICT等の利活用に積極的に取り組む。</p>	<p>①学校内の意見を整理し、学校外からも情報収集することにより、様々なニーズに対応し、学校目標にも合致した適切な教育課程の運用・改訂案を提案する。</p> <p>②生徒による授業評価のコメントをヒントに、検討会等を実施することで、生徒同士がお互いを支え合う授業や、学習内容の定着率を高める工夫を共有し、生徒が自発的に学習に取り組む授業を目指す。また、外部との連携を積極的に行うことにより教員の授業力向上を目指す。</p>	<p>①積極的に情報収集を行い、様々なニーズや学校目標に適切に対応した教育課程改善案を提示し、軌道修正をすることができたか。</p> <p>②生徒の授業評価の8項目に対する回答が3.2を維持することができたか。生徒から寄せられる自由記述欄を参考にして、自らの授業を振り返り改善につなげることができたか。また、外部との連携により得られた知識等を通じて、授業力を向上させることができたか。</p>	<p>①新しい教育課程は、現段階では修正をする必要はないと判断したが、2・3年の選択科目を充実する必要がある。</p> <p>②生徒による授業評価の8項目について概ね昨年度と同水準の評価を得た。自由記述に組織的に真摯に対応することで授業の改善につなげることができた。ICT機器の活用を中心とした授業改善に取り組み、教職員のICT機器活用意識を高めることができた。</p>	<p>①新しい教育課程に対応した個別最適な授業の実践や指導と評価の一体化について各教科・科目内でより一層の研究が必要である。</p> <p>②一人一台端末の導入により、教職員が端末の利活用を促進するため、校内研修の充実など、組織的に取り組む必要がある。教科横断的な視点で組織的に授業改善に取り組み、カリキュラムマネジメントを充実させることにより、生徒の学習改善につなげる必要がある。</p>	<p>○ 生徒による授業評価を活用した授業改善を行っていることは評価できる。自由記述欄の記載には授業改善にむけた有効な意見が記載されていることが多いことから、これを活用するべきである。</p>	<p>① 新しい学習指導要領に即した教育課程にむけて、円滑に移行することができた。来年度完成するが、編成時の構想とのミスマッチがないか検証する必要がある。個別最適化教育や指導と評価の一体化については引き続き、追求する必要がある。生徒による授業評価の結果を有効活用することができている。</p> <p>② 今年度は、一人一台端末における画面共有システムを導入し、有効に活用できるようにした。来年度は、全学年が一人一台端末を持っていることを前提に、授業や様々なところでICT化の促進を図る必要がある。</p>	<p>① 新教育課程の完成にあわせ、選択科目の運営などの検証を行い、修正が必要なものは修正を行う。また、「総合的な探究の時間」において、教科横断的な学びや探究活動をさらに取り入れた運営を検討し、実施する。</p> <p>② 引き続き、一人一台端末の活用を推進する。また、組織的授業改善は不断の取組として、さらにすすめる。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①基本的な生活習慣の確立と支援教育体制の充実を図る。</p> <p>②生徒の主体的な活動を支援し、豊かな人間性やコミュニケーション能力を育成する。</p>	<p>①「基本的な生活習慣の確立」「規範意識の醸成」「モラル・マナーの向上」の3本柱を中心に、教職員全体の生徒指導力向上を目指し、生活指導全般の改善・立て直しを図る。</p> <p>②行事や部活動を高校生活の柱の一つと捉え、主体的・意欲的な参加を促す。</p>	<p>①通常指導・特別指導のあらゆる場面において、学校内における指導上の重点ポイントを見直し、教育相談や支援教育も重視しつつ、全教職員が同じスタンスで生活指導に臨むことができるような体制を整える。</p> <p>②新入生歓迎会や部活動登録期間を通じて積極的に部活動勧誘を行う。また、生徒自らがコロナ禍後の社会変化に対応した学校行事を企画・立案、実施する。</p>	<p>①欠席・遅刻・早退の数を減少させることにより、評価未履修となる科目数を前年比50%以下に抑えることができたか。ルール明確化・共有化を問題行動の未然防止につなげることができたか。</p> <p>②コロナ禍後の社会変化に対応した行事の企画・立案、実施ができたか、また部活動加入率が向上したか。行事ごとのアンケートで良かったと回答した生徒が7割を超え</p>	<p>①評価未履修となる科目数は前年度に比べ減少したが、ルールの明確化・共有化という点では不十分であり、定期試験中の頭髪・服装指導や登下校指導中に比べて、日常の指導対象生徒数は減少させることができなかった。</p> <p>②新入生歓迎会による部活動紹介や部活動登録期間の見学などを通じて各部・同好会による勧誘を行うことができた。また、コロナ禍直後に体育祭や文化祭などの学校行事を行うことができた。文</p>	<p>①女子生徒の冬季ジャージ着用を中心とした服装の乱れや、ピアスの着用を減少させることができるように、日常の指導がより徹底しやすい対応の工夫や変更が次年度の改善すべき課題のひとつである。</p> <p>②アンケートの結果、体育祭が「良かった」が93.2%を占めたが、文化祭は「楽しかった」が67.8%に留まった。文化祭は初日の台風による中止や一般公開への対応の影響があったため、日程や</p>	<p>○ 制服の粘り強い指導を行っていることは評価できる。女子生徒が冬季にジャージを着用する理由は理解できる。多様性を認める上でも制服そのものを検討する必要がある。また、制服以外においても、多様性、ジェンダーフリーの観点から、ソフト、ハードとも体制を整備しておくことが求められる。</p> <p>○ サポートドックの取組において、心配な生徒を抽出し、必要な生徒に支援を行うようにすべきである。また、アンケートで項目にチェックをつけた生徒には全員対応する必要があるため、支援が必要な生徒だけが抽出されるように、アンケートを改善したり対応方</p>	<p>○ 生徒が安心して学校生活を送れることを目的に、地道に生活指導に取り組んだことは評価できる。教職員が日常共通に校則指導できる体制づくりに課題がある。また、サポートドックに取組み、支援が必要な生徒を共有し対応した。今後は、効率的な収集を行う必要がある。</p> <p>○ 今年度、体育祭や文化祭が感染防止に配慮をしながらも、コロナ禍を脱した形で有意義に行うことができた。コロナ禍で中学校時代を過ごした影響や時代の変化に応じた学校行事をつくる必要がある。また、部活動に参加している生徒が少ない。</p>	<p>○ 生徒や保護者から理解を得られる校則や指導を検討する。また、多様性やジェンダーフリーの体制に向けて検討する。</p> <p>○ 部活動オリエンテーションを改善し、すべての入学生が部活動を体験できる体制をつくる。学校行事では、従前の体制にとらわれず、生徒の実態等に合わせたものを構築する。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(3月25日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	<p>①生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、多様な進路希望の実現を支援する。</p> <p>②キャリア教育を充実させ、より良く生きる能力を育成する。</p>	<p>①キャリア支援を充実させ進路希望実現に向け、自己の適性を確認させる。面接指導等個々の指導を充実させる。</p> <p>②インクルーシブ教育推進校として幅広い実習先や体験先の開拓を行い、活動の充実を図る。キャリア科目において、生徒の自己理解と進路に対する前向きな姿勢を育成する。</p>	<p>①外部講師を招き進路ガイダンスを開催する。学級担任と連携を密に、生徒個々に情報提供を行なう。きめ細かな面接指導を行う。</p> <p>②インターンシップを推進するとともに、受入れ先の事業所を開拓する。体験的・対話的な指導で生徒の自己理解と進路に対する前向きな姿勢の育成を図る。また、その取り組みの過程や成果を保護者へ情報提供する。</p>	<p>①事後アンケートでの8割以上前向きな感想や面接指導を受けた生徒が8割以上あったか。</p> <p>②インターンシップの参加率が前年度より増加したか。また、幅広い事業所の開拓ができたか。</p> <p>指導を通し、生徒の自己理解と進路に対する前向きな姿勢が発現したか。</p> <p>面談やガイダンスを通し、生徒・保護者に情報提供できたか。</p>	<p>①ガイダンス後のアンケートでは肯定的な回答が80%以上あった。進路指導室の3年生の利用状況は80%を超えたが、1・2年生は低調だった。個別指導は3年生の95%以上が受けた。</p> <p>②インターンシップは周知活動を行い、昨年度比8名増の38名の参加者は好意的な感想であった。</p> <p>キャリア科目では、担当教諭間で役割分担を明確にし、生徒の実態に合わせた授業を行うことができた。</p>	<p>①オンライン等での資料請求や出願がますます増えたため、進路指導室の環境をさらに整備し、生徒の関心を高める。</p> <p>②インターンシップなどの機会を充実させるため、外部団体・企業との連携を図り卒業後の進路目標に向けた体験活動をより充実させる。自立や社会参加に向けて、個別支援などによりキャリア科目を進展していく必要がある。</p>	<p>法を強化したりする必要はある。</p> <p>○ 1学年において希望に応じた進路先を見学させるのは進路先を固定してしまう懸念がある。進路希望が揺れ動く時期であることから色々な進路先を見せることも検討する必要がある。</p>	<p>○ 3学年の生徒に対して、ガイダンスや進路指導を行い、ほとんどの生徒の進路を実現できたことは評価できる。3学年になるまでに自分の進路のイメージが決まっていなかった生徒が少なくないことや進路に対する調べ等が行われていないことは課題である。</p> <p>○ インターンシップの参加者数や有意義に参加した者が増加したことは評価できる。さらに外部団体・企業との連携を広め、キャリア教育と連携し、卒業後の進路につなげることが必要である。</p>	<p>○ 1学年より自分の将来の進路を考えさせ、「総合的な探究の時間」などを活用し、卒業後の進路を考えさせる進路指導のプログラムを検討する。3学年までに進路希望を醸成する。</p>
4	地域等との協働	<p>○地域との連携・協働の充実を図り、信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>○コロナ禍後の社会変化に配慮しながら、可能なイベントに生徒の参加を促す。</p>	<p>○コロナ禍後の社会変化に配慮しつつ、参加者の安全に留意したイベントについて、部活動や同好会、委員会に案内し、参加を促す。</p>	<p>○イベント等に参加した生徒に対するアンケートを行い、肯定的な回答が7割を超えたか。</p>	<p>○二宮町主催「第32回ガラスのうさぎ像〜平和と友情のつどい〜」に参加し、二宮町立小中学校との千羽鶴制作、司会、受付、碑文の英訳朗読を行った。また「海岸清掃」・「赤い羽根共同募金」・「菜の花ウォッチング」・「にのみや男女共同参画フォーラム」への協力、参加を行った。</p>	<p>○達成状況以外に本校「ボランティア同好会」が要請に応じて対応した実績も複数あり、地域との連携が、コロナ禍後の社会情勢に応じて増加傾向にある。次年度以降は更に生徒たちの地域貢献の機会が一層望めるため、生徒へ積極的かつ計画的な参加を促して行く。</p>	<p>○相模人形部の活動を活性化させ、地域自治会の場でも披露して欲しい。委員会活動から部活に発展させる取り組みに期待する。</p>	<p>○コロナ禍後の社会情勢に応じ、様々な活動に参加できたことは評価できる。さらに、地域貢献の機会を増やし、自己肯定感の醸成や郷土を愛する態度を身に付けることが必要である。</p>	<p>○これまで参加してきた活動を継続するとともに、さらに地域貢献活動や地域の活動に参加する機会をつくる。また、相模人形部の活動を活性化させ、地域貢献活動の一助にする。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①事故不祥事防止を徹底するとともに、教職員の実践的指導力を一層向上させる。</p> <p>②防災教育と安全安心な学校づくりを推進する。</p>	<p>①職員の主体的な不祥事防止の取組を組織的に推進し、信頼と期待に応える学校づくりを進める。</p> <p>②防災教育と環境美化の推進に継続して取り組む。</p>	<p>①不祥事防止について職員が主体的に事故防止に取組む体制をつくる。また、職員研修会を月1回以上実施し、知識や意識が向上させた上で組織的な学校運営をすすめる。</p> <p>②防災避難訓練やDIGを通して防災意識を高める。環境美化委員会を中心に日頃の環境美化や行事毎のゴミ回収等を徹底する。</p>	<p>①不祥事防止研修会を毎月実施し、事故を防止することができたか。また、職員の討議を進め、学校運営に生かすことができたか。</p> <p>②防災活動の振り返りを行い、防災意識の向上についての回答が7割を超えたか。ゴミの分別回収や減量に取り組めたか。</p>	<p>①毎月の適時性のあるテーマで事故不祥事防止研修会を開催するとともに県内で不祥事が発生する度に紹介し、事故防止の意識が向上した。</p> <p>②防災避難訓練や地区別集会・DIGを実施し、防災意識を高めることができ、多くの生徒の取り組みも良好であった。防災用の発電機の試運転も実施した。</p>	<p>①今後も常に事故は発生するという意識を持ち、防ぐことを意識することが必要である。</p> <p>②ゴミの分別回収や減量は清掃場所により差が生じ、今後も継続して取り組んでいきたい。</p>	<p>○これだけの業務を行っていることは、教職員の時間外勤務が増大していることが想像できるが、長時間労働にならないような働き方改革が必要である。</p>	<p>○不祥事ゼロプログラムに基づく行動や職員どうしのコミュニケーションの活性化等により事故・不祥事が生じなかった。しかし、今年度県内では18件の懲戒処分のある事故・不祥事が発生している状況から、引き続き、事故・不祥事防止の取組を行う必要がある。</p> <p>○防災避難訓練等の実施により、防災意識が高まったことは評価できる。防災での地域貢献や地域共存を追求する必要がある。</p>	<p>○常に事故は発生するという意識を持ち、事故・不祥事防止に取り組む。</p> <p>○防災訓練を充実させ、地域防災を視野に防災体制の構築を追求する。</p>

